

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q7 パネルディスカッションで参考になった部分がありましたご記入ください。 ※自由記述

●コメント一覧 ※全8件

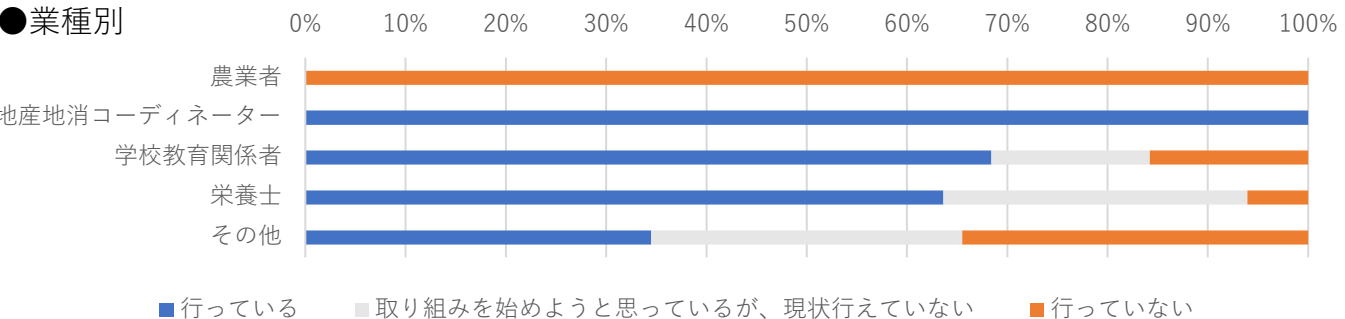
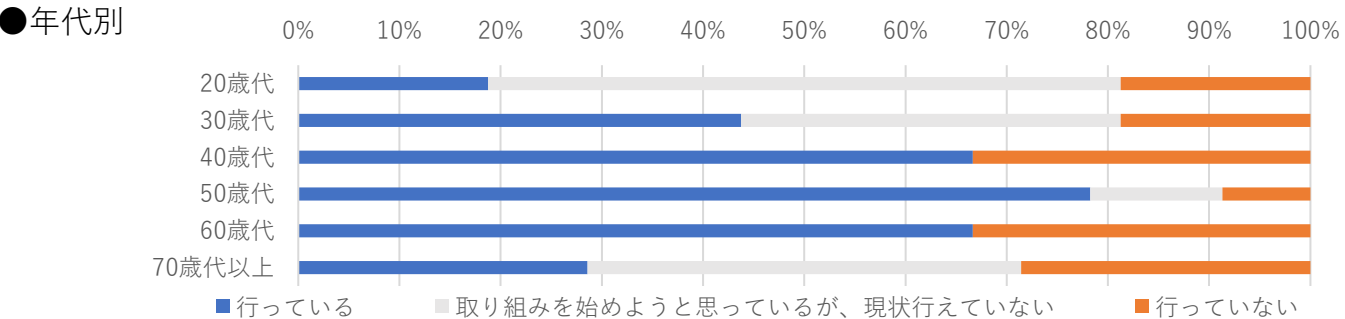
- ・ 参考にならなかった部分はありません（30歳代・女性・栄養士）
- ・ 地産地食を進める上での問題となる点とどのように解決したのかを聞いた点（40歳代・男性・その他）
- ・ 全体的に（50歳代・女性・その他）
- ・ 方向性を示唆していただき助かった。（70歳代以上・男性・その他）
- ・ 自分たちの活動と照らし合わせて考えることが出来た。（70歳代以上・女性・地産地消コーディネーター）
- ・ それぞれの立場・環境下での現場の意見であったこと（60歳代以上・男性・その他）
- ・ 各発表者に質問されていた所です。聴き取りやすく良かった。（70歳代以上・女性・その他）
- ・ 輸送費を抑えるために時期を合わせて野菜を使用する、野菜をまとめて運ぶこと（20歳代・女性・栄養士）

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q8 現在地産地消に関する取り組みは何か行われていますか？

- ・視聴者の過半数がすでに食育活動を行っているという回答の結果となりました。
- ・年代別に見ると、30歳代～60歳代までの方、特に40歳代～60歳代の方については6割以上の方が活動を行っているという回答しており、中間管理職の世代が積極的に活動に取り組んでいると考えられます。また、職業別のデータでは、農業者の方が全員活動を行っていないという回答しており、学校給食における食育活動については、栄養士など給食を作る方から食材をつくる生産者へ波及的に浸透させていくというプロセスが主流であると考えられます。

		行っている	取り組みを始めようと思っているが、現状行えていない	行っていない
全体		46 (53.5%)	22 (25.6%)	18 (20.9%)
性別	20歳代	3 (18.8%)	10 (62.5%)	3 (18.8%)
	30歳代	7 (43.8%)	6 (37.5%)	3 (18.8%)
	40歳代	12 (66.7%)	0 (0.0%)	6 (33.3%)
	50歳代	18 (78.3%)	3 (13.0%)	2 (8.7%)
	60歳代	4 (66.7%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)
	70歳代以上	2 (28.6%)	3 (42.9%)	2 (28.6%)
職業	農業者	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100%)
	地産地消コーディネーター	2 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	学校教育関係者	13 (68.4%)	3 (15.8%)	3 (15.8%)
	栄養士	21 (63.6%)	10 (30.3%)	2 (6.1%)
	その他	10 (34.5%)	9 (31.0%)	10 (34.5%)



アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q9 上記で「行っている」とご回答された方は、具体的にどのような活動を行われていますか？

●コメント一覧 ※全14件

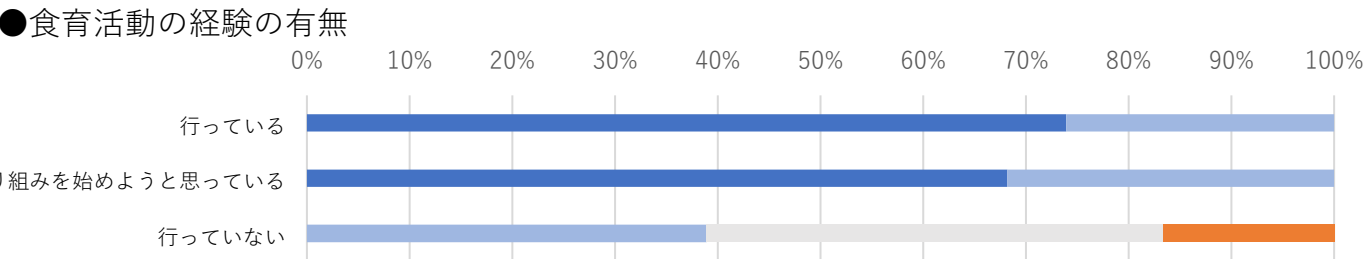
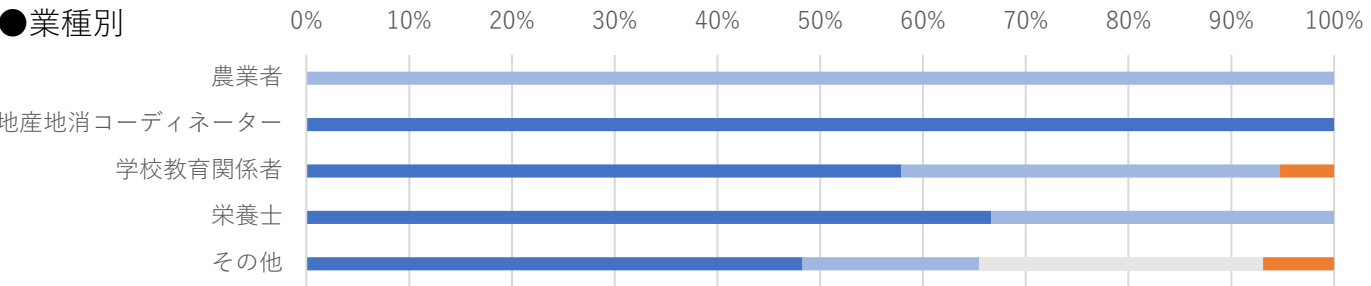
- ・ https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/syokuiku1/index_1_d/fil/kyushokuaction.pdf
（30歳代・女性・栄養士）
- ・ 学校給食に地場産物を取り入れている。（20歳代・女性・栄養士）
- ・ 地域への愛着を目的とした食育プログラム、食育教材の開発（40歳代・女性・栄養士）
- ・ 個人としてはできるだけ国産・地産を購入すること、職業人としては地産地消の重要性について啓発を行っていること（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・ 食育団体を主催し、講座の開催や地域の食材に特化したイベントを開催している。
（50歳代・女性・その他）
- ・ 学校給食で使用している米は、市内で生産されたもの。JAの協力を得ている。月に2～3回、市内で生産された野菜を使用している。市農政課・直売所、コーディネーターの協力を得ている。（50歳代・女性・栄養士）
- ・ 道の駅とその都度相談しながら、地場産物を活用するようにしている。
（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・ 地元のJAから野菜等を学校給食用としてわずかだが、購入している。
（50歳代・女性・学校教育関係者）
- ・ 地産地消の普及啓発（60歳代・女性・学校教育関係者）
- ・ 「地場産品導入協議会」をつくり、生産者、流通業者、加工業者と学校の双方向の理解を深めながら、少しずつ地産地消を拡げている。今年11月には、100%地元産給食をおこなった。
（70歳代以上・女性・地産地消コーディネーター）
- ・ 国産こめ油を学校給食向けに製造・販売（60歳代・男性・その他）
- ・ 市で目標値を定め毎月どれくらい市内を給食に使えたか集計を行っている、地場産物活用レシピを毎月提供し献立表や市のHPで紹介している、生産者を招いた食育授業の実施、地場産物に関する食生活アンケートの実施&結果をHpで公表、地場産物を活用したパンやデザートの提供など（30歳代・女性・栄養士）
- ・ 町内産の野菜や地場産加工品を給食で使用している。（30歳代・女性・栄養士）
- ・ 農家さんに直接納品してもらうよう栄養士がスカウトしてます(笑)
（50歳代・女性・栄養士）

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q10 今後地産地消の取り組みを行っていききたい、継続していききたいと思いましたが？

- ・全体の87.2%の方が、今後地産地消の活動を行っていききたいと回答しており、本シンポジウムが目的である地場産物の使用拡大に貢献できたと考えることができます。
- ・職業別のデータでは、農業者、地産地消コーディネーター、栄養士と学校給食に直接関係する職種の方は全員地産地消について前向きな意見を持っているという結果となりました。
- ・食育活動の取り組みを始めようと思っていると回答した方の全員が前向きな回答、中でも68.2%の方が「ぜひ行いたい」と回答しており、本シンポジウムは地産地消の活動に対してのヒントを得られる内容であったと言えます。

		ぜひ 行っていきたい	行っていきたい	どちらでもない	どちらかと言えば 行いたくない	行いたくない
全体		49 (57.0%)	26 (30.2%)	8 (9.3%)	0 (0.0%)	3 (3.5%)
職業	農業者	0 (0.0%)	3 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	地産地消 コーディネーター	2 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	学校教育関係者	11 (57.9%)	7 (36.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)
	栄養士	22 (66.7%)	11 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	14 (48.3%)	5 (17.2%)	8 (27.6%)	0 (0.0%)	2 (6.9%)
食育活動の経験の有無	行っている	34 (73.9%)	12 (26.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	取り組みを始めよう と思っているが、 現状行っていない	15 (68.2%)	7 (31.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	行っていない	0 (0.0%)	7 (38.9%)	8 (44.4%)	0 (0.0%)	3 (16.7%)



■ぜひ行っていきたい ■行っていきたい ■どちらでもない ■どちらかと言えば行いたくない ■行いたくない

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q11 地産地消に関する取り組みを行う上で、障壁になっている部分がございますらご記入ください。 ※自由記述

●コメント一覧 ※全19件

- ・現在は和歌山県（行政）の栄養士として勤務していますが、以前は委託栄養士として病院に勤務していました。食数が多ければ、同じ規格の食材を大量に、確実に納品してくれなければ、給食提供業務に支障が出ます（食数が少なければ、当日急に献立を変更することも可能かと思いますが・・・）。また、1食あたりの金額は決められており、その範囲内でやりくりしなければいけません。地元の農林水産物を使用した食材は、新鮮で美味しく、その食材を使った給食は、患者様に喜ばれますが、なかなか難しいのが現状ではないでしょうか。（30歳代・女性・栄養士）
- ・生産者の少なさと、安定供給の難しさ。（20歳代・女性・栄養士）
- ・納品側と供給側のミスマッチ。（40歳代・男性・その他）
- ・食に対する意識の低さ（50歳代・女性・その他）
- ・価格が高い。時期によって使用できる食材に片寄りがある。納品可能といわれていたものが、直前に納品不可となることがある。（50歳代・女性・栄養士）
- ・野菜等の企画や品質にバラつきが大きいことと虫食いが多くいることや、貯蔵庫がないため、劣化した品質が納入されることもある。コーディネーターの存在が必要である。（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・価格、連携・意識不足（20歳代・女性・栄養士）
- ・継続的に行うために体制整備が必要だと思うが、コーディネーターとなる人がいないため、体制整備が難しい。（30歳代・女性・学校教育関係者）
- ・生産者のとりまとめ（70歳代以上・男性・その他）
- ・農協（40歳代・男性・農業者）
- ・生産者から給食施設への配送（50歳代・女性・学校教育関係者）
- ・地産地消を推進したい市民は、有機農業を求めるが、地域の現状では100%有機は難しい。地域の現状と、出来るだけ環境負荷をかけない美味しい野菜作りの落としどころ、「有機を8割、必要に応じて少し化学肥料、困った時の適正農薬使用」といった方法を、地域で広めながら環境負荷を減らしていきたいが、その取り組みに対する国や行政の応援があるかがわかりづらい。（70歳代以上・女性・地産地消コーディネーター）
- ・価格が高い割に品質がよくない時がある、全体的に割高、地場のものが時期によっては出てこない時がある、食数が多いため量的な問題、配送の問題（30歳代・女性・栄養士）
- ・生産者の高齢化（生産量や種類の減少。納品忘れ）（30歳代・女性・栄養士）
- ・生産から消費までの食品の流れが消費者に十分理解されていない。（60歳代・男性・学校教育関係者）
- ・地物の魚は高価で使えない。地物の野菜は虫食いが多く洗浄・点検に時間がかかる。（50歳代・女性・栄養士）
- ・地域で生産されている野菜を納入業者の八百屋が取り扱ってくれれば給食で活用しやすい。地場産物を使用しても、普段の価格と変わらないことが必要。（20歳代・女性・栄養士）
- ・JAの協力（50歳代・女性・栄養士）
- ・規格外の食材の活用や活用のための連携（50歳代・女性・学校教育関係者）

アンケート集計結果（質問項目ごとの詳細）

■Q12 今回のシンポジウムに関するご意見・ご感想がございましたらご自由にお書きください。 ※自由記述

●コメント一覧 ※全15件

- ・再視聴できたので良かった。資料をダウンロードできるようにしていただければ嬉しいです。（30歳代・女性・栄養士）
- ・地産地消の重要性について、理解することができました。（20歳代・男性・その他）
- ・愛知県からの参加になります。他県での給食の取り組みがとても参考になりました。（30歳代・女性・栄養士）
- ・学校給食への地場産導入は、学校給食の食材導入に関するネットワークを構築することが重要だと感じました。はじめは、1自治体内（地域内）で食材原料調達システムを構築し、最終的には近隣の自治体ともネットワークで繋がれる（最終的には日本全体でも？）と扱える地場産・地域産食材の種類も多くなるのではないかと思います。そこには、行政・教育機関・JA・宅配業者などの連携が必要かと思います。また、そうしたシステム・ネットワークづくりに、AIやIoTを活用していただきたいです。
日本の場合、最終的には、国産農産物が全て国内で売り切れることだと思いますので、まずは、地域のなかでしっかりと学校給食に導入して、地域の農業・環境にも、子どもの教育・健康にも良いシステムを確立して欲しいです。
給食は何を食べるか子どもが選択できないので、地域の大人が子ども達に何を食べさせてあげるのか、何を食べてほしいのか、しっかりと考える必要がありますね。
シンポジウム楽しく拝聴いたしました。ありがとうございました。（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・案内にありましたように、シンプルに「学校給食での地場産の使用拡大に関する障壁とそれに向けた取り組みの事例」について紹介されるものと思い参加させていただいたのですが、ほとんどなかったように感じました。
価格、入札、物流、規格、相互理解、調整役の存在などの課題について、「どんな実情があり、どのように対応されているのか」について、ヒントが得られればと参加された方は多いのではないのでしょうか。（40歳代・男性・その他）
- ・オンラインでの講義であり、遠出をしなくても気楽に視聴できたのがよい。（40歳代・女性・学校教育関係者）
- ・先進事例を聞けて大変勉強になりました。今後の参考にしていきたいと思います。ありがとうございました。（資料が事前に送付いただけるとありがたかったです）（20歳代・女性・栄養士）
- ・音声の一部途切れることがあり、残念に思っていたが見逃し配信があったので、ありがたい。（30歳代・女性・学校教育関係者）
- ・毎年定期的を開催してください。知らないことを学べるのがうれしい。（40歳代・男性・農業者）
- ・もっと、他の地域での取り組みも紹介しながら、一緒に考える機会になればいいと思う。（70歳代以上・女性・地産地消コーディネーター）
- ・新鮮でおいしいものを給食に提供できる環境づくりを国に主導願いたい（60歳代・男性・その他）
- ・取り組みを参考にするためにも、事前に発表に関する資料が欲しかったです（他のオンライン研修では資料を頂けることが多いです）（30歳代・女性・栄養士）
- ・地域の情報を聞くことができたので次回もオンラインでの参加を希望します。（60歳代・男性・学校教育関係者）
- ・各担当者の方々お忙しい中、発表されてくださいました。本当にありがとうございました。（70歳代以上・女性・その他）
- ・具体的な取り組みを知る機会になりました。
貴重な機会をありがとうございました。（20歳代・女性・栄養士）